

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を元に事業計画を作成し、日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。毎月の職員会議の際、全職員で事業所理念を読み上げ再確認している。	法人全体の理念をもとに事業所独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう、玄関・共有スペースに理念を掲示し、毎月の職員会議の際、全職員で事業所理念を読み上げ確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に向けた広報誌を発行し、地域で回覧して頂いている。地域の祭りや避難訓練など地域行事へも参加している。近隣の方から、作物を差し入れして頂くこともある。	地域に向けた広報誌を発行し、地域に回覧しています。また、地域の方から野菜を頂いたり、地域の防災訓練にも参加したり、中学校の体育祭に見学に出かける等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域に向けた広報誌を通じ、認知症の人を理解してもらえるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており、入居者の状況や運営の現状について報告、意見交換を行いサービスの向上に反映している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、ご利用者代表、ご家族代表、市の担当者、地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から毎回運営推進会議へ参加していただき、事業所の実状やケアサービスの取り組みを報告し、意見、協力を頂いている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイスを頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修会に参加し、身体拘束への認識、理解を深めている。施錠は夜間のみ行っている。施錠が必要な状況が発生した場合も、職員で話し合い、施錠しないケアへの取り組みを行っている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとし、法人にて身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修会に参加し、虐待防止への認識、理解を深め、虐待防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修会への参加により、制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する取り組みや重度化や看取りについて対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者からの要望を伺うようにしており、ご家族からは面会時や電話連絡時に意見や要望を伺いサービスへ反映させている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	ご家族同士が交流できる機会を設け、より懇親を深められることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回ほど個人面談を実施し、各職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるよう努めている。	年2回は個人面談を行い、人事異動の要望も確認する等、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回の人事考課により、個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ、多くの職員から参加してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同事業所との定期的な事例検討会を開催し、職員同士の意見交換や交流の機会を設けている。 定期的に法人内グループホームの管理者会議を開催し、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人の生活状況を把握するよう努め、少しでも不安が解消されるようにご本人やご家族の不安や要望を伺い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の苦労や今までの経緯について十分話しを聴き、ご本人の生活に反映されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや要望、その時の状態をこまめに確認、話し合いながら必要なサービスへと繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な調理作業や洗濯物たたみ、畑作業などご本人ができることを職員と一緒に行うようにしている。職員と協働しながら生活できる環境づくりを心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談するよう心掛けている。 事業所広報誌の発行や年2回の近況報告により、日々のご入居者の様子をお伝えしている。	事業所広報を送付やご利用者毎に近況報告もお送りしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近隣の知人や親戚、姉妹などの面会もある。 昔よく出かけていた場所を聞き取りながら、行き先を決めている。	知人や親せきの方に面会に来ていただいたり、ご家族の協力も得て、馴染みの美容室へ出かけたり、外食に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見極めながら、必要時には職員が仲介役となり、入居者同士の関係が築かれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合は、生活状況などご本人の情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動に気を配り、一人ひとりの希望や意向を感じ取れるよう常に傾聴の姿勢でケアに取り組み、その人の思いを大切にしている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より聴き取りを行ったり、日頃の会話や日常の様子から得意、不得意や好み等、情報の収集に努めている。	契約時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や暮らし方を確認しています。3ヶ月に1度はアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員が一人ひとりの日常の状態に注意を払い、居室担当職員を中心に個々の状態把握に努めている。申し送りノートや職員会議で情報が共有されるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から思いや意向を聴き取り、ケアプランに繋げている。必要に応じ、看護師など他職種に意見を求めている。月1回のモニタリングにより現状を把握し、状態変化に応じた介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向を確認し、ケアプランの検討を行っています。居室担当者が毎月モニタリングを行い、必要に応じて介護計画も見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアプラン実施時の様子など、個人記録に記載し、職員間で情報を共有している。変化があればカンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の本人、家族の状況やニーズに合わせて、早急に検討し、必要なサービスや支援は柔軟に取り組み対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて行政や地域包括より参加していただき、情報交換や協力体制を築いている。月1回のボランティアとの交流や近隣住民との会話、祭りへの参加など地域との関わりにより豊かな暮らしとなるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族希望のかかりつけ医への受診、ご家族付き添いを基本とし、必要時には職員、看護師が同行し現状を医師へ伝えるなど、適切な治療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員や看護師が同行し、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな体調の変化も見逃さないよう努めている。変化が見られた場合は、すぐに看護師に相談できる体制になっており、指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、できるだけ詳しい情報を提供し、安心して治療が受けられるよう努めている。 入院中は面会や家族への連絡等により、回復の状態を把握し、早期退院に向け病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所側の方針を説明し、ご本人、ご家族の今後の意向を確認しながら、ご本人にとって最良の支援が出来るよう、主治医、看護師、栄養士等と連携を図りながら支援している。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師、栄養士とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による普通救命講習に全職員が参加し、急変時に対応できるようにしている。急変時、無断外出時の対応や連絡経路の確認などの周知にも努めている。	毎年1回は消防署職員より普通救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特別養護老人ホームとの合同での避難訓練や単独での夜間想定での避難訓練を行っている。年1回地域の方からも訓練に参加いただいている。	隣接する特別養護老人ホームと合同での避難訓練やグループホーム単独での夜間を想定した避難訓練を行なっています。町内会の避難訓練にも参加しているほか、地域の方からも避難訓練に参加して頂き、協力して頂けるようにしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応が馴れ合いとならないよう、人格を重視したケアを行っている。広報誌の写真掲載において、ご家族より同意を受け掲載している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に同意を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での意思表示が可能な方は、思いや希望を聞き取るようにしている。意思表示が困難な方には、表情や行動から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者個々の気持ちや希望を大切に、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの服装やヘアースタイルなどおしゃれを楽しんで頂き、生き活きとした気持ちで生活を送って頂ける様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者から希望を伺いながら、メニューを作成している。 協力いただける方からは、野菜の皮むきなどの下準備や味付け、盛り付けなどを手伝って頂いている。また、食器洗いも手伝って頂いている。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑で野菜をつかっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者の誕生日には希望のメニューを確認し提供したり、外出に出かけたり、流しそうめんや梅干し作りも行うなど、食事が楽しみになるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの管理栄養士より、定期的にメニューを見てもらい指導を受けている。 食事制限や咀嚼機能が低下している方の食事形態など個々に合わせ対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがいなど個々に合わせた口腔ケアへの声掛け、見守りを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、ご本人の排泄リズムの把握に努め、個々の排泄状況に合わせた対応を行っている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも4箇所あり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便となるよう、多目の水分摂取や乳製品、食物繊維の多い食材によるメニュー作成に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認し、希望に添えるよう入浴して頂いている。皮膚状態、状況に合わせた入浴回数や時間を設定している。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。季節に合わせて菖蒲湯も行うなど、ご利用者に入浴を楽しんで頂けるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を把握しながら、食後の休息を勧めている。 日中に活動時間を設け、夜間休んで頂けるよう働きかけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを個人ファイルに個々に綴り、職員が内容を把握出来るようにしている。 受診後変更があった場合は、業務日誌等で申し送り、職員周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたむ作業、調理など、昔家事をされていた方からは手伝って頂いている。 新聞を読みながら、コーヒーを飲まれたり、散歩や歌をうたうなど、個々に合わせた役割や気分転換が図られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	読書が好きな方は、近くの図書館へ定期的に職員と出かけたり、ご家族面会の際に、ご本人の希望の場所へ外出される場合もある。 季節ごとに、ご入居者が昔行かれた場所を伺いながら、希望の場所への外出支援を行っている。	ご利用者と一緒に図書館に本を借りに出かけたり、ご家族にもご協力して頂き外出に出かけたり、季節に合わせたお花見や紫陽花見学、蓮見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を所持されている入居者はいない。意向があればご家族から現金を預かり、外出の際に買い物や飲食を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、いつでも電話を使っていただいている。ご家族や知人からかかってきた電話も、ご本人に取り次ぐようにしている。 遠方のご家族から手紙が届くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感のある吹き抜け天井リビングには、手作りの日めくりカレンダーや行事でのスナップ写真を飾り、馴染みのある空間作りをしている。 植物や装飾品により季節感ある環境づくりを心掛けている。	リビングは広々として吹き抜けの天井が開放感を出しています。全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	調査時点でトイレの換気扇や、居室の表札にほこりがたまっている箇所もありましたので、定期的に掃除を行われることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の居間とフローリングの食堂に分かれた共有空間は、くつろぐ場と協同での趣味活動の場と使い方をその場その場で使い分け出来る空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には安心して過ごせるよう、馴染みの家具や装飾品などを持ち込んでいただくように、入居時から働きかけている。	居室には、馴染みの家具や装飾品を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室の手すりを設置。トイレの場所がわかり、自ら行けるようトイレの表示や矢印で案内している。		